

口ずちむ詩

いろはに つねこさん

阪田寛夫

いろはにへとへと ほがぬけて
ちりちりぬるぬる をわかれよ
よだれたれそな つねこさん
ろろのむっちゃん さようなら
うぬのうえのの どうぶつえん
みくやまこえて けしこえて
あさきひるきて よるがきて
ゆめにみしみし むおじしん
とんででもせず めいもせず
きょうもねんねこ つねこさん

阪田寛夫 小説家・詩人

いろは歌は、四十七字の仮名を一度ずつ使って、七五調で仏の教えを歌っている。平安時代の賢いお坊さまか、学者が作った大傑作。

色は匂へど散りぬるを
我が世誰ぞ常ならむ 有為の奥山今日越えて 浅き夢見じ酔ひもせず

「いろはに つねこさん」は、その大天才の膝の上で、人まね小僧がふざけてはしゃいでいる歌です。

黙読よりは、声に出して、それを聴く、という意味でNHKラジオ「お話でこい」（一九七九年）に書いたというのが、この作品らしい生い立ちだと思います。